



苺・西瓜の管理について

営農指導課 境



苺

1.定植準備の実施

台風の襲来を想定し、畝作りは8月下旬までに古ビニールによるベタ掛け被覆まで終らせましょう。また、排水が悪いほ場では、排水溝を深くするなどの対策を行ってください。

2.病害株の対策・予防

今年も害虫の発生が多い状況です。葉数が少ない今が防除の好機ですので、本圃に害虫を持ち込まないように徹底してください。併せて、うどんこ病の防除も行いましょう。

3.育苗管理

最終追肥は、品種によって異なります。肥料切れによる「芯止まり」や過剰施肥による「花芽の遅れ」に繋がりますので適切な管理を心がけてください。

※あと3～4週間で定植が始まる時期です。定植前には必ず花芽検鏡を行い、花芽分化を確認してから定植してください。

西瓜

1.定植後の管理

根回し水は、日中の高温時を避け、早朝または日没前を目安に行ってください(高温時にかん水をすると、熱くなった土と水で根が焼けて成長が止まる可能性があります)。

また、微小害虫が多い時期の定植となるため、粒剤処理や初期防除を徹底し、草勢が弱らないよう管理をお願いします。

2.環境条件に合わせた管理

抑制栽培での西瓜の定植期は温度・湿度ともに高く、寒冷紗等の遮光資材の活用が必要です。一方で、時期によっては交配期頃から温度が低下し、着果棒からの収穫日数が延びてしまう場合もあるため、適切な温度管理が重要です。

また、春作型よりも抑制作型の西瓜は裂果が起こりやすい傾向にあります。収穫間際の草勢低下やハウス内環境が10度を下回らないように暖房機や内張りを使用し、裂果対策に努めましょう。



9月の果樹園管理

営農指導課 藤本



防除・施肥管理・栽培管理

品目	管理内容	農薬・資材名	収穫前日数	倍数	対象病害虫
みかん	虫が活動できる気温が続いているため、サビダニ、ホコリダニ、カメムシ類の発生には注意する。 早生以降の浮き皮しやすい園と収穫が遅れる園は、ジベレリンとジャスモメートを混用して散布を行う。 散布時期の目安は収穫予定の3か月前に散布。 ※使用する際は、必ず表層の果実のみ散布を行う。 (内側の果実に散布を行うと着色の遅延が長くなる可能性があるため) 混用:ジベレリン:5000倍 ジャスモメート:2000倍	アルバリン顆粒水和剤	前日	2,000倍	カメムシ類
		ストロビードライフフロアブル	14日	3,000倍	黒点病
		スピノエースフロアブル	7日	4,000倍	アザミウマ類
		ベルコートフロアブル	前日	2,000倍	貯蔵病害
		ベンレート水和剤	前日	4,000倍	貯蔵病害
デコボン	乾燥状態に急激なかん水を行うと裂果に繋がるため、少量多回数かん水を行い、土壌が乾燥状態にならないようにかん水を行う。	クレント	—	100倍	浮皮対策
		オリオン水和剤40	14日	1,000倍	ハマキムシ類
		ストロビードライフフロアブル	14日	2,000倍	黒点病
		ジューシーカル	—	1,000倍	果皮強化
梨	あきづきの収穫は満開後150～160日頃 新高の収穫は満開後180日頃	アピオンE	—	1,000倍	展着剤
		オーソサイド水和剤80	3日	800倍	黒星病
柿	着果の目安として、太秋は葉果比25～30枚に1果。m ² あたりの着果数としては6～7果。西村早生では、葉果比15～20枚に1果。m ² あたりの着果数は8～9果。	アピオンE	—	1,000倍	展着剤
		スコア顆粒水和剤	前日	3,000倍	炭そ病
栗	鮮度保持の為、気温の低い早朝に収穫を行う。				

※気温の高い日が続いております。水分・塩分補給等をしながら農作業を行いましょう。



トビイロウンカ(秋ウンカ)・カメムシの防除について

農産課 酒井



今年の飛来状況

トビイロウンカの初飛来は7月3日、コブノメイガは6月20日頃に確認されました。今年のトビイロウンカの飛来量は平年に比べ少ない状況ではありましたが、今後も気温が高く推移する予報で増殖も高まる可能性があります。ほ場の発生状況を確認し、適期防除を行いましょう。

秋ウンカ

- トビイロウンカは増殖率が高く、低密度のほ場でも高密度となる恐れがあり、特に、箱処理剤を使用していないほ場等では注意が必要です。また、播種同時処理をしたほ場は、移植時処理に比べ1か月ほど早く薬剤効果がなくなるため、定期的にはほ場の発生状況を観察し、適期防除を行いましょう。
- 感受性が低下しているアドマイヤー、アクタラ、バッサの使用は避けましょう。
- 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では多発する傾向があるので特に注意しましょう。
- 効果的な本田防除のために
 - ◎本田防除のポイントは、「**幼虫が多い時期**を狙って散布すること」です。
どの農薬も、成虫に対する効果はほとんどありません。
 - ◎**ほ場で発生状況を確認!**
トビイロウンカの要防除水準は、**10株あたり:2頭超(7月下旬～8月上旬)、10頭超(8月中～下旬)**です。

カメムシ

- イネカメムシ**の発生が近年拡大傾向にあります。基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、不稔米を発生させます。**適期の防除が実施されていない場合は、大幅な減収となる可能性があります。**
また、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期(4～5割程度が出穂)**に防除をすることが重要です。
- その他主要な斑点米カメムシ類は**穂揃い期(9割程度が出穂)**とその**7～10日後**に防除を行いましょう。

本田防除剤の散布 JA米(JA鹿本普通作栽培基準P3掲載)

対象病害虫	防除時期	薬 剤 名	散 布 量	使用時期
紋枯病、ウンカ類、コブノメイガ	8月上旬～中旬	オーケストラロムダンモンカットエア― 又は オーケストラロムダンモンカット粉剤DL	(エア―)1000倍液・ 60～150L/10a (粉剤)3～4kg/10a	(エア―)収穫21日前 (粉剤)収穫14日前
いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	9月上旬	ブレードスタークルRゾル 又は ブレードスタークル粉剤DL	(Rゾル)1000倍液・ 60～150L/10a 粉剤(3～4kg/10a)	収穫7日前
カメムシ、ウンカ類	臨機防除	スタークル液剤10 スタークル粉剤DL スタークル豆つぶ	(液剤)1000倍液・ 60～150L/10a (粉剤)3～4kg/10a (豆つぶ)250～500g/10a	収穫7日前

※農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。また、飛散防止を徹底するとともに危害防止に努めましょう。



花卉の栽培管理について

営農指導課 猪原



花卉全般

台風の発生時期になりました。事前にハウスバンド等の緩みを確認し、露地ほ場では杭の補強やネットの設置状況を点検してください。また、排水対策を徹底するとともに、降雨後は速やかに殺菌剤を散布してください。これから作付されるほ場では、積極的に土壌分析を実施し、その結果に基づいた適正な施肥を心掛けましょう。

シェード菊・露地菊について

仕上げの時期を迎えています。側枝の整理やBナイン処理等の遅れがないよう、計画的に作業を進めてください。また、花の膜切れ前まではヨトウムシ、アブラムシ、スリップス等の防除を徹底し、花への混入防止に努めましょう。出荷時は、午前中の涼しい時間帯に採花を行い、前処理剤を確実に使用してください。

秋菊について

高温の影響により、定植後の立枯れ等が発生しやすくなります。定植前から50％程度の遮光を行い、十分な灌水と地温の低下に努めてください。また、深夜電照の時期となるため、電照設備の点灯忘れや球切れ、落雷等にも十分注意してください。

洋花について

採花後は莖葉の伸長が早く、整枝が難しい時期ですが、放置すると上位等級が取りにくくなるだけでなく、コナジラミやハダニ等の微小害虫の防除も困難になります。品質維持と害虫防除のためにも、早めの整枝を心がけてください。